

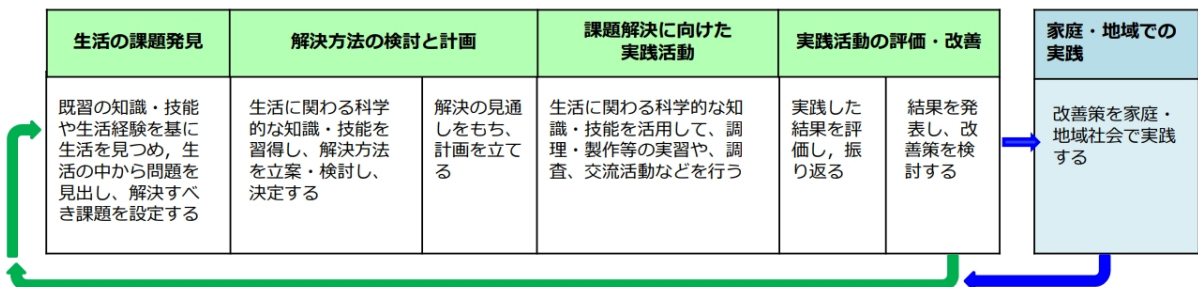
1 研究主題との関連について

(1)「教科等本来の魅力」について

家庭科の教科は「よりよい」生活の実現に向けて、生活の営みにかかる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指している。教科等本来の魅力とは、「家庭科を学ぶことでこれからの実生活を「よりよく」過ごすことができるようになること」と考える。

家庭科において育成を目指す資質・能力は、分野の目標に「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って示されている。小・中学校の五年間でこれらの能力を「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の三つの内容を学習する中で系統的に育成することが求められている。これらの内容は図1の文部科学省が技術・家庭科(家庭分野)の学習過程のイメージのように「生活の課題発見」→「解決方法の検討と計画」→「課題解決に向けた実践活動」→「実践活動の評価・改善」(→「家庭・地域での実践」)のサイクルの中で育成していき、学んだことを授業と実生活を結び付けながら考えさせ、結果として実生活を「よりよく」過ごすことができる力を身に付けさせていく。

図1 家庭科、技術・家庭(家庭分野)の学習過程(案)



出典：文部科学省 HP

(2)「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」について

昨年度の研究より、教師の資質能力の具体として、授業構想力では「自分とのつながりを考えた視点」、授業実践力では「柔軟に取り組む視点」が必要だということが分かった。それを踏まえたうえで今年度は、以下の具体に表した能力が、生徒が実生活を「よりよく」過ごすことができるようにするために教師に必要な資質能力だと考える。

表1

資質能力	教科等が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	○生徒の実態や学習内容を踏まえ、つけたい力を明確化した目標を設定する視点。 ○実生活に関わる問題を取り入れ、単元を通した生徒の学びのつながりを踏まえて授業構想を行う視点。 ○近年の問題を取り上げ、自分とのつながりを考え、今・未来の私たちの生活につなげる視点。
授業実践力	○生徒の実態に合わせて、臨機応変に授業を行う視点。

	○対話的な授業を行い，生徒の発言から学びを深めていく視点。 ○実際に体験・作業をしたり，パワーポイントや実物を用意して実際に見たりすることで更に理解を深めていく授業を行う視点。
授業分析・ 評価力	○生徒の実態を分析・評価し，自身の実践を改善する視点。 ○生徒の実態を分析・評価し，形成的評価を行う視点。

2 本年度の研究計画

(1) 研究の目的

本校が定めた逆向き設計論に基づき，表1で考えた教科等が考える「教師の資質能力」を踏まえた授業構想を行い，「家庭科の魅力に迫るための教師の資質能力」とは何かを，授業の中で「生徒の見取り」を通して明らかにする。

(2) 研究の方法

「家庭科本来の魅力に迫るための教師の資質・能力」を視点として授業構想・実践を行い，生徒の授業の様子や授業後の振り返りから，授業で行ったことを自分の生活と結び付け，これからの実生活を「よりよく」過ごしていけるような記述をしているかどうかを分析・評価していく。

(3) 検証の方法

目標がどの程度達成されているか，生徒の姿や振り返りをもとに授業改善及び教師の資質能力の妥当性を吟味・検討する。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省（2017），『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』，開隆堂
- 2) 筒井恭子（2021）『中学校技術・家庭科 家庭分野 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫』，東洋館出版社